

## 令和5年度第2回最終処分会運営委員会議事録

日 時：令和5年7月4日（火）10:00～11:45

場 所：公益社団法人全国産業資源循環連合会会議室（ZOOMによるWEB開催）

出席者：（運営委員）都築 建（部会長）、澤田裕二（副部会長）

田中正巳、杉田昭義、松本明利、小城戸秀明、篠原隆行  
（事務局）室石泰弘、日浦朋子、香川智紀

配布資料

### 議事次第

出欠表

資料1	最終処分場に係る要望事項（案）
資料2	最終処分場施設見学会概要（案）（運営委員限り）
資料3	埋立処分委託契約書様式の普及啓発について（案）
資料4	再生可能エネルギー発電設備の廃棄・リサイクルのあり方に関する検討会資料（抜粋）
参考資料1	令和5年度第1回最終処分会運営委員会議事録

### 1. 開会

#### 2. 挨拶

##### （1）連合会挨拶

室石専務理事が以下のとおり挨拶した。

議連総会（6月13日開催）の際に、全産連と政治連盟から要望書を提出した。その中には軽油免税の延長と最終処分業者に対する新たな支援策についても含めている。本日は最終処分会として、具体的な要望事項をとりまとめていただけるようご審議賜りたい。

##### （2）部会長挨拶

都築部会長が以下のとおり挨拶した。

軽油免税は本年度末で期限を迎える。最終処分業者に対する要望事項についても本日の委員会でとりまとめたいと考えている。忌憚のないご意見を賜りたい。

日浦事業部長兼調査部長が着任の挨拶をした。

### 3. 議事

#### （1）最終処分場に係る要望事項

事務局が資料1を説明した。また、軽油引取税の延長要望に向けたデータ収集のための調査について、6月8日に環境省と事務局が打ち合わせた内容を以下のとおり報告した。

- ・ 環境省は免税措置の延長を総務省に要望する予定である。
- ・ 総務省には、環境省が進めている脱炭素の政策と、軽油免税の政策の説明を求められるだろう。
- ・ 環境省としては脱炭素を進めて行くためにこの特例措置を活用することが重要であると説明する

考えである。

- ・ すなわち、軽油を使用する重機から低炭素型、脱炭素型の重機への移行を後押しするために、この制度が必要であるという位置付けである。
- ・ 具体的には、処分業者が所有する重機から低炭素型、脱炭素型の重機に置き換えた場合に、引き続き使用している軽油を燃料とした重機で使用した軽油を免税とする考え方である。
- ・ 軽油免税の目的はランニングコストの低減であり、低炭素型・脱炭素型の重機の導入に対する支援措置は、既に沢山の措置があるためそれを利用していただければ良い。
- ・ 総務省との調整は8月後半から開始予定である。
- ・ 延長要望の根拠を説明するデータを収集するために、環境省がアンケート票を作成する。連合会は協会を通じて最終処分業者に配布していただきたい。

続いて、資料1の項目毎に意見交換を行った。

#### 〔1. 税制上の特例措置に関する要望〕

都築：前回の運営委員会までのご意見を整理し、要望項目及び優先順位を資料1のとおり提案を整理した。軽油引取税の延長に対する環境省の考え方は事務局から説明したとおり脱炭素とセットだが、部会としては単純延長を要望したいと考えている。

澤田：要望内容に賛成である。環境配慮型燃料（GTL燃料）もあるが、それを利用しても単価が下がるわけではない。

都築：最終処分場の立地特性からGTL燃料を配達してもらうことは難しい。

松本：部会長の提案に賛成である。ハイブリッド重機は、申請に時間を要し、金額も高額であるなど問題も多い。GTL燃料を取り扱っているスタンドは限定されており、利用を促進できる環境には至っていない。

当社では重機をリースで使用している。以前、県に相談した際にはリース重機での使用は軽油免税対象に該当しないと指摘であったが、先日相談した際にはそれが認められた。担当者が代わると軽油免税を利用できる可能性があるので各社においても相談してみると良い。

篠原：提案の内容及び優先順位に賛成である。当社は、以前は免税軽油を利用していたが、書類等の手続きが面倒であるため現在は利用していない。

田中：提案の内容に賛成である。温暖化対策と関連させる必要はなく、原材料費の高騰下で処理料金を維持するために必要であることを理由として要望した方が良い。北海道では、軽油以外の燃料を使用した重機は、馬力不足により冬期に場内の坂道を上ることができないため、全面的に入れ替えることができない。

都築：当初は、延長要望を諦めかけていたが、皆様のご意見をお聞きし、要望しなければならないと決断した次第である。免税額を営業活動で賄おうとすると大変な労力を要する。

小城戸：単純延長を求めるべきである。人件費を上げないと人も集まらないし、シート等の材料費も高騰が著しい。

杉田：提案の内容に賛成である。引き続き最終処分業者に制度を周知する必要がある。

都築：単純延長を求めていくこととしたい。室石専務理事におかれては当業界の要望実現に向けて環境省との折衝をお願いしたい。

室石：全産連として議員連盟には軽油引取税の免除の延長を要望し、その旨は理事会でも報告してい

る。部会としてもその方向性を明示していただいたので、環境省には優先順位を含めて伝えてゆきたい。ただし、環境省としても世の中の時流に沿って、低炭素、脱炭素に向けた政策を進めなくてはならないため頭を悩ませていると思う。環境省に対して当業界は単純延長が第一優先であることをお伝えしたい。なお、環境省においては単純延長を裏付ける調査と、ハイブリッドに対する調査が行われるだろう。調査にご協力いただきたい。

杉田：当業界が脱炭素に後ろ向きであったり、努力していないということでは決してない。利用可能な重機等が存在するのであれば良いが、現時点では使用に耐え得る重機がないことを環境省にしっかりとご理解いただく必要がある。環境省には、そのような状況であるため、当業界としては優先順位をこのように考えているということをご理解いただけるようにお伝え願いたい。

資料1「1. 税制上の特例措置に関する要望」の「(1) 軽油引取税の課税免除阻止の延長」は原案どおり承認された。

## 〔2. 維持管理積立金の損金算入措置の縮小・廃止に代わる新たな支援措置の創設〕

室石：議論の呼び水として申し上げたい。災害廃棄物の処理について当業界が役割を果たしているため何らかの支援措置を求めることは良いと思う。しかし、客観的に見ると2の(1)①、③、(2)は、税に関する知識を持っている立場の者から見ると、最初から非常に難しい要望であると感じざるを得ない内容であると思う。

(1)の①は、被災に対する支援に関する税負担について、全て免除とならない限り認められないのではないだろうか。例えば、ミネラルウォーターや紙おむつなどの救助物資を供出した場合の売上についても、課税が免除されなければならないと思うが、現実には課税が免除されるような制度にはなっていない。かなりハードルが高いだろう。

②は、これまでも要望し、一定程度の緩和措置が講じられてきているが、もう一押し必要ということか。難しいという指摘はあるだろう。

③は、安全面等の技術的条件が満たされた場合などの条件が抜けている。軽微変更の10%を変更するためには、その根拠を説明する必要がある。現行の10%そのものに明確な理由はないと思われるので、10%を例えば15%とした場合に、その15%の根拠を説明することは難しいだろう。

(2)は、前回の運営委員会において、税務署と協議して改善された事例が紹介された。そのような個別協議を求められるのではないだろうか。

いずれにしても、最終処分場を運営する立場として現実的な支援策を提案し、実現できれば良いが、かなり難しい要求をしているのではないかと感じている。

篠原：ミネラルウォーターなどの事例が紹介されたが、最終処分場は容量が決まっており、埋め立てた段階で終わりであるということ強く主張しておくべきである。他の業界とは全く違うことを説明していただきたい。

田中：専務理事の説明はよく理解できるが、篠原委員の指摘どおり最終処分は一度埋めたら終わりである。他の業界のように再生産することはできない。最終処分場は身を削って地域の振興に協力している。自社の経営を優先すると、協力しないことや料金を上げることも選択肢にはなり得るが、いずれも非難の対象となり得るため現実的には不可能である。値上げもせず坦々と協力せざるを得ない状況が一般的だろう。最終処分業者の地域への想いもあって協力していると

いうことを強く訴えるべきである。最終処分業者が協力しやすい雰囲気作りが重要である。処分場は一旦埋め立てると容量を復活させることはできないことを強く主張し、理解を求める必要がある。

都築：地元が置かれた状況を考えると災害廃棄物は受け入れざるを得ない。東日本大震災時に受け入れた際にも単価設定の問題で悩んだ。値上げすると周辺の不幸で儲けていると指摘されるため、当社が適正と考えている単価の半額程度の料金で受け入れざるを得なかった。受入後の環境保全対策などの維持管理費の負担増を踏まえると、適正処理料金は求めるべきである。当社では、今回は東日本大震災時の受入料金では協力することはできないと考えている。

松本：阪神大震災時は24時間体制での支援を強いられた。それで利益が上がったわけではなく、赤字覚悟で地域の復興を支えた。その後、水害等の災害廃棄物の処理に協力してきた。水害廃棄物は開梱した段階で凄まじい臭気を発しており、将来にわたる水処理コストの上昇を懸念している。災害廃棄物の受け入れは、処分容量を急激に消費するため、次期処分場の手当も大変である。

都築：復興に向けた最終処分業者の苦勞に報いることができる制度の整備を求めてまいりたい。

杉田：中間処理と最終処分の違いについて、処理業界内への説明も重要である。最終処分場は埋めたら終わりであり、中間処理施設が災害廃棄物の処理に協力することとは、状況は全く異なる。

澤田：最終処分場に受け入れることは身を削ることである。最終処分業者の経営の圧迫にならない工夫や支援は不可欠である。最終処分業者が望む支援の仕組みができると良い。

意見交換の結果、項目及び優先順位については了承された。

事務局注：会議終了後、本会議での運営委員の意見を踏まえ、部会長の判断により最終処分場の特異性について追記・修正し、連合会理事会（令和5年7月11日開催）に報告いたしました。修正後の資料を資料1として添付します。

## (2) 最終処分場施設見学会の開催

事務局が資料2を説明し、原案どおり承認された。

## (3) 埋立処分委託契約書様式の普及啓発

事務局が資料3を説明し、原案どおり承認された。出された主な意見は次のとおり。

都築：東京都は「モデル契約書」を作成しているが、埋立処分委託契約書で追加した事項は含まれていない。来月、東京協会と都環境局の懇談会が予定されており、そのような機会を通じて行政にもご理解いただけるよう説明したいと考えている。運営委員の皆様におかれても業界のみならず、行政にもご理解いただけるようご尽力いただきたい。

澤田：資料3に賛成である。多くの方が目にする機会を用意していく必要がある。

篠原：契約書は排出事業者が作成し、処理業者に押印を求めてくる場合が多い。埋立処分は当部会が作成した様式を利用するというルールができると良い。大手排出事業者からは独自様式での契約を求められるため、当社では別途、誓約書を作成して対応している。

都築：中間処理業者との新規契約において埋立処分様式の使用を依頼している。この様式があることを業界全体に広めてゆく必要があると思う。

杉田：当社では新規契約は埋立処分様式を利用している。更新契約時に置き換える工夫が必要である。最終処分業者間での情報共有が重要だろう。

都築：埋立処分様式の作成後4年を経過しているが、当社でも使用できているのは僅かである。埋立処分様式が利用されるようにならないと処分場の問題は改善できない。普及活動にご協力をお願いする。

事務局注：令和5年7月13日に埋立処分委託系客諸様式（Word ファイル）をダウンロードできるように修正いたしました。

ダウンロードページ：<https://www.zensanpairen.or.jp/disposal/agreement/umetate/>

(4) その他  
特になし。

#### 4. 報告

(1) 再生可能エネルギー発電設備の廃棄・リサイクルのあり方に関する検討会について

事務局が資料4を報告し、意見交換を行った。

松本：埋立処分は最後の砦であり、まずリユースやリサイクルを考えるべきである。埋立処分としては含有より溶出が重要である。中間処理後物が搬入される場合、中間処理でどのような処理が行われたかが重要である。他の廃棄物と一緒に破砕した場合、その後の利用や埋立処分を行ううえで問題が生じる。太陽光パネルをどのように集めるかが肝心である。太陽光パネルに含まれる鉛、カドミウム等のデータベースの作成が検討されているようだが、検索の容易性も重要である。

都築：太陽光パネルが普及した当時は、内容物は企業秘密で全く開示されなかった。そのような状況の場合には、今後は処理の引き受けを考慮せざるを得ない。

杉田：今後、このようなヒアリングの依頼があり、説明の機会が生じた場合には、埋立処分委託契約書の説明も追加していただきたい。

参考：再生可能エネルギー発電設備の廃棄・リサイクルのあり方に関する検討会

[https://www.meti.go.jp/shingikai/energy\\_environment/disposal\\_recycle/index.html](https://www.meti.go.jp/shingikai/energy_environment/disposal_recycle/index.html)

#### 5. 閉会

室石専務理事が以下の挨拶をし、閉会した。

活発なご議論に感謝する。政府の予算案、税制等は8月には明らかになってくるだろう。その前に運営委員会を開催することができ、部会としての考え方を示すことができた。ご意見を実現できるよう活動してまいりたい。太陽光パネルの処理についてはマスコミ等でも取り上げられるようになってきている。契約書の普及も重要であり、連合会としても取り組みを進めてまいりたい。